

群馬県立沼田高等学校(全日制) 学校評価一覧表① (令和3年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。	学校全体で文武両道の行動規範を推奨し、生徒が日々学習と部活動を中心とした学校生活に主体的に取り組むよう、機会あるごとに機運を高める。 折に触れ、「五常の教え」について意識させ、学校行事などで更に浸透を図る。教職員自ら手本となり全員で挨拶の励行と清掃活動に取り組む。 食育に関する広報紙「食と健康」を発行し、HRや保健の授業でも食事の重要性について生徒に訴える。食に関する生徒向け行事を行う。		A 職90%	B 生79% 保79%	コロナ禍の中で制約を受ける事もあるが、学習と部活動とメリハリのある生活を過ごせるよう指導していく。	A 職93%	B 生78% 保80%	多くの生徒が文武両道を実践しているが、主体的に取り組めていないと感じている生徒もいる。継続的に指導していきたい。 多くの生徒がしっかりと挨拶ができており、校内美化にも努めている。「五常の教え」について保護者にも周知したい。 引き続き、食に関する広報紙「食と健康」や「保健便り」等で生徒の食に関する意識を継続して高めていく。 引き続きコロナ禍の生活様式の中でも、生徒が日々の集団生活の中で充実感を感じる場面を大切に教育活動を継続する。
		②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っているとする生徒が80%以上である。			A 職97%	A 生94% 保74%	日々の学校生活や特別活動の中で「五常の教え」が実践された好例などをWebページなどを用いながら紹介していく。	A 職90%	A 生94% 保79%	
		③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。 ④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。			A 職100%	C 生88% 保87%	引き続き、食に関する広報紙「食と健康」や「保健便り」等で生徒の食に関する意識を高めていく。	A 職93%	B 生90% 保87%	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に先生が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。	職員が日頃の授業の様子や学びの基礎診断テストツールの結果などから、生徒の学習状況をしっかりと把握し、個々の学習レベルに合わせて疑問にしっかりと答える。 ⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。		A 職90%	A 生96% 保80%	各種アンケートや基礎診断テストの結果を活かしながら、個々の生徒の学習状況を把握した上で、疑問に回答する。	A 職97%	A 生95% 保81%	各種アンケート等で生徒の実態をしっかりと把握しながら、引き続き生徒との信頼関係を大切にしながら指導に当たっていく。 少人数・習熟度別授業の中でよりきめ細かい指導ができている。職員研修などを活用しながら、引き続き授業改善に努める。 昨年度第2回や本年度第1回調査と比べると数値は上がっている。授業と家庭学習のリズムが整うよう学習計画をたて、継続的に振り返り活動を取り入れていきたい。
		⑦授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。			A 職100%	A 生91% 保92%	コロナ禍の生活様式の中でも、生徒が日々の学校生活の中での目標を見つけ、その目標に向かっていく意欲を周囲が支援する。	A 職100%	A 生90% 保94%	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑧授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	授業内容と連動した有効な家庭学習課題を課すように授業計画に組み入れる。また、家庭学習でクロムブックを有効に活用し、学び直しが繋がるような学習課題を設定し、一人一人の絶対的な家庭での学習時間を増加させる。		C 職47%	B 生81% 保72%	生徒の認識と教職員の認識が大きくずれている実態を分析し、個別の面談や各種アンケートを利用しながら、生徒の学習実態を把握していく。	C 職55%	B 生83% 保79%	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。	「青春の志」実現計画を踏まえ、各学年で生徒の学習面・生活面について把握し、各自にあった適切な指導を行う。 ⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。		A 職100%	A 生95% 保88%	年度当初から各担任による二者面談を積極的に行っている。個々の生徒に応じた適切な指導ができている。	A 職100%	A 生97% 保90%	年間を通じて学級担任による個人面談を実施しており、生徒一人一人に応じた指導ができている。今後も継続していきたい。 学年会議や分掌会議で生徒の情報共有ができている。職員間のコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化も見逃さないような組織づくりをさらに進めていく。 いじめ案件への対応は校内委員会によって組織的に対応できた。校内研修により職員の意識向上に努めた。保護者にとって学校がどんな活動をしているのかが見えにくい状況を改善したい。 ほとんどの生徒が遅刻をすることなく登校している。例年よりも欠席率は高かった。コロナ禍でも自己の心身の健康管理ができる生徒を育成していく。 カウンセラー便りを出したり、SCによる「こころの教育事業」を通じてSCの認知度が高まった。保護者の利用についても周知したい。 担任だけでなく、学習・進路・学校生活全般等、様々な場面で生徒と向き合っており、生徒からの信頼を得られている。今後も親身になって相談や指導に当たっていきたい。
		⑩いじめを容認しない校風づくりといじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である			A 職100%	B 生89% 保78%	学年会議や分掌会議で生徒の情報や教諭するだけでなく、日頃から職員間のコミュニケーションが取れており、生徒の些細な言動の変化にも気付くことができている。	A 職100%	B 生90% 保80%	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりといじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である	本校のいじめ防止プログラムに取り組むとともに、校内職員研修の充実を図る。学期に1回以上、いじめアンケートを行い、いじめの早期発見と早期対応を図る。		A 職100%	C 生88% 保63%	いじめ防止プログラムに沿った取組を行った。いじめ案件は早期発見・早期対応ができた。保護者への周知については、HPや一斉メールなどを活用し、学校での取組を紹介する機会を設けたい。	A 職100%	C 生85% 保68%	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。	学年と各分掌が連携し、面談等を通じて生徒の健康管理や規則正しい生活習慣について指導を行う。挨拶の励行については教職員側からの挨拶を心掛ける。 「カウンセラーだより」の配布やこころの教育事業を通じて気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。		A 職100%	A 生93% 保93%	ほぼすべての生徒が遅刻することなく登校できている。挨拶についても礼儀正しく、元気よく行えている。	A 職97%	A 生94% 保93%	2学期は外部機関との連携やICTを活用し探究活動を進めてきたが、引き続き教員側の探究心醸成が必要不可欠であるため、年度当初に「目指す生徒像」を全体で確認し進めて行くとともに、副教材などの導入を検討していく。 生徒の実態に合わせた模擬試験の計画を立て実行できた。模試結果を教科指導・面談指導に活用することで模試受験を生徒の主体的な進路実現の一助とした。 1、2年ともオンラインでの進路学習会となった。保護者が参加しやすく、各学年に合った内容となるよう、外部講師の導入も含め、検討していきたい。
		⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。 ⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。			A 職100%	B 生85% 保78%	カウンセラーだよりを発行しているが、保護者の目に触れていないものと考えられる。HP等を活用したい。	A 職100%	B 生82% 保82%	
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	教職員からの積極的な声かけを行うとともに、学習面だけでなく、学校生活や日常生活についても話題に触れ、生徒の些細な変化や行動を見逃さないよう、日頃から生徒の状況把握に努める。		A 職100%	A 生93% 保72%	教職員からの声かけや二者面談により生徒からの信頼を得ている。生徒に寄り添った姿勢でコミュニケーションを図り、生徒が話しやすい雰囲気醸成していく。	A 職97%	A 生92% 保74%	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	「総合的な探究の時間」年間計画に基づき、課題設定、情報収集、探究活動等に主体的、協働的に取り組ませることを通して、生徒自身がキャリアプランを策定する能力を向上させる。 ⑮模擬試験を有効に活用し、進路決定に役立っている生徒が70%以上である。		A 職93%	A 生96% 保81%	コロナ禍の影響で、計画を変更せざるを得ない現状であるが、情報収集に努め、内容の精選を行い、効果的な進路指導の在り方を研究していきたい。	A 職86%	A 生97% 保83%	2学期は外部機関との連携やICTを活用し探究活動を進めてきたが、引き続き教員側の探究心醸成が必要不可欠であるため、年度当初に「目指す生徒像」を全体で確認し進めて行くとともに、副教材などの導入を検討していく。 生徒の実態に合わせた模擬試験の計画を立て実行できた。模試結果を教科指導・面談指導に活用することで模試受験を生徒の主体的な進路実現の一助とした。 1、2年ともオンラインでの進路学習会となった。保護者が参加しやすく、各学年に合った内容となるよう、外部講師の導入も含め、検討していきたい。
		⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。			B 職67%	B 生84% 保61%	昨年度の課題を確認し、ICTを活用するなどの取り組みを入れたが、接続不良などの問題も生じた。ICT活用の継続とコロナ禍でも進められるような工夫をしていきたい。	B 職76%	B 生86% 保66%	
	9 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑯模擬試験を有効に活用し、進路決定に役立っている生徒が70%以上である。	進路指導年間計画により、模擬試験を、各学年で必要とされる基礎学力の定着と応用力の伸長を図る指針とする。さらに模試結果を活用した受験後の指導を充実させる。		A 職80%	A 生90% 保69%	感染防止対策の下、できるだけ計画に沿った模試実施を行い、模試分析等を教科指導・進路指導に積極的に活用していきたい。	A 職83%	A 生91% 保72%	
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰保護者対象の進路学習会が有意義だと感じている保護者が70%以上である。	保護者が参加しやすい日程を検討し、各学年と連携し、内容を精選し、わかりやすい進路情報の提供を行う。 ⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。		A 職93%	B 生85% 保78%	学年と連携し内容を吟味し、1、2年の保護者向け進路学習会を10月中の平日夕方に実施する。	A 職90%	B 生86% 保82%	当初の計画から変更し、保護者学習会はオンラインにて、公開授業は3年生の保護者のみを対象とした。臨機応変に対応していく。 引き続き、実施に備えて粛々と準備を進める。一般開放実施日を年間行事計画や学校Webページに掲載し、周知していきたい。 概ね良好な結果を得ている。引き続き、オクレンジャーと学校Webページを併用しながら適切に情報を発信していきたい。
		⑱図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者（生徒保護者を含む）が70%以上である。 ⑳Webページに掲載された情報やオクレンジャーの連絡が役に立っていると捉える生徒保護者が70%以上である			A 職97%	A 生91% 保83%	2学期に予定されている各学年保護者学習会、公開授業をしっかりと案内する。	A 職97%	A 生90% 保88%	
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。 ㉒ICT機器を使った授業が70%以上である。	展示物に興味を持っていたできるように展示内容を工夫し、参加者していただいた方に対して丁寧な接遇を徹底する。 各分掌、学年、部活動等から集めた情報を迅速に処理して発信するとともに、Webページの構成を画像や写真などを用いて、更に見やすく、わかりやすい構成へ改善する。 校内研修を実施し、クロムブックを活用した授業のアイデア等を職員間で共有し合うことで、ICT機器の活用を促進していく。 スタディサプリやグーグルクラスルーム等のクラウドサービスを、生徒の学習ポートフォリオとして積極的に活用していく。		A 職83%	B 生93% 保60%	コロナ禍の影響で中止になることもあるが、実施に備えて粛々と準備を進めておく。 日々の教育活動をスピード感を持って発信し続けると共に、Webページでは未更新の情報を更新する。	A 職90%	B 生89% 保66%	
Ⅶ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉓ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	校内研修を実施し、クロムブックを活用した授業のアイデア等を職員間で共有し合うことで、ICT機器の活用を促進していく。 スタディサプリやグーグルクラスルーム等のクラウドサービスを、生徒の学習ポートフォリオとして積極的に活用していく。		A 職100%	A 生92% 保94%	2学期の分散登校に備え、職員間でICT機器の基本的な操作方法や授業での活用方法等を積極的に情報交換した。 グーグルクラスルームを活用し、授業動画や学習課題の配信および小テストの評価等を実施している。	A 職100%	A 生94% 保97%	分散登校中の取り組みにより、ICT機器の活用が促進された。今後は、各教科の特性に応じた有効な活用方法を検討し、授業研究等を積極的に行っていく。 ほぼ全ての授業で、クラスルームを作成し、授業の連絡や課題の配信等で行っている。今後は、クロム上での定期考査の実施や学習ポートフォリオとしての活用も検討していく。
		㉔ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。			A 職90%	A 生91% 保78%	2学期の分散登校に備え、職員間でICT機器の基本的な操作方法や授業での活用方法等を積極的に情報交換した。 グーグルクラスルームを活用し、授業動画や学習課題の配信および小テストの評価等を実施している。	A 職93%	A 生89% 保82%	
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉕ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	グーグルクラスルームを活用し、保護者通知や各種アンケート等のペーパーレス化を進め、従来の回収作業等の業務の負担を軽減していく。		A 職97%	A 生90% 保70%	ほぼ全てのアンケート調査が、グーグルフォームを活用したものに移行できている。	A 職93%	A 生91% 保77%	
Ⅷ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉖ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	校内研修を実施し、クロムブックを活用した授業のアイデア等を職員間で共有し合うことで、ICT機器の活用を促進していく。 スタディサプリやグーグルクラスルーム等のクラウドサービスを、生徒の学習ポートフォリオとして積極的に活用していく。		A 職90%	A 生91% 保78%	2学期の分散登校に備え、職員間でICT機器の基本的な操作方法や授業での活用方法等を積極的に情報交換した。 グーグルクラスルームを活用し、授業動画や学習課題の配信および小テストの評価等を実施している。	A 職93%	A 生89% 保82%	分散登校中の取り組みにより、ICT機器の活用が促進された。今後は、各教科の特性に応じた有効な活用方法を検討し、授業研究等を積極的に行っていく。 ほぼ全ての授業で、クラスルームを作成し、授業の連絡や課題の配信等で行っている。今後は、クロム上での定期考査の実施や学習ポートフォリオとしての活用も検討していく。
		㉗ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。			A 職97%	A 生90% 保70%	2学期の分散登校に備え、職員間でICT機器の基本的な操作方法や授業での活用方法等を積極的に情報交換した。 グーグルクラスルームを活用し、授業動画や学習課題の配信および小テストの評価等を実施している。	A 職93%	A 生91% 保77%	
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉘ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	グーグルクラスルームを活用し、保護者通知や各種アンケート等のペーパーレス化を進め、従来の回収作業等の業務の負担を軽減していく。		A 職97%	A 生93% 保75%	ほぼ全てのアンケート調査が、グーグルフォームを活用したものに移行できている。	A 職97%	A 生91% 保80%	